

トラブル回避の基礎知識

火災警報器のトラブルにご注意

国民生活センター 相談情報部
黄田 玲子

住宅用火災警報器に関わるトラブルが増加しています。

【事例】 先日一人暮らしの80歳の母の家に、作業服を着た男が「消防署から点検に来た」と訪問してきた。「住宅用火災警報器を設置することが義務化され、取り付けていないと罰金を払ってもらうことになる」と説明され、母は驚いて設置を依頼し、10万円を払ったという。しかし私が消防署に問い合わせたところ、訪問してきたのは消防署の職員ではないと分かった。機器を取り外して10万円を返してほしい。

消防法の改正により、平成23年6月までに全ての住宅で住宅用火災警報器を設置することが義務付けられました(設置していなくても罰則はありません)。

事例のケースは訪問販売に当たるため、契約書面を受け取った日を含めた8日間はクーリング・オフができます。設置が済んでいても、無償で取り外すよう業者に求めることができます。

火災から大切な命を守るために、火災警報器の設置が済んでいない場合には次の点に注意して速やかに取り付けましょう。

(1) 設置場所は寝室と階段室ですが、市町村によっては独自の基準を設定している場合があります。事前に居住地の消防署に問い合わせましょう。

(2) 住宅用火災警報器は、量販店などでは1個当たり数千円から購入が可能で、個人でも取り付けが

できます。ただし、正しい位置に設置しないと、煙の感知が遅れる場合があります。個人で設置する場合には、取扱説明書をよく読んで設置しましょう。業者に依頼する場合には、できるだけ複数の業者から見積もりを取り、工事内容をよく理解してから契約しましょう。

なお高齢者を見守る意味からも、地域で協力し合い、共同購入するなどの方法が有効です。



「帯状疱疹(ほうしん)」とは、体の片側に赤い発疹が帯状に並んでできることから付いた名前です。多くは、ピリピリ、ズキズキする痛みが体の左右どちらか片側に起こり、5〜6日後に痛みのある場所に赤い発疹が現れ、やがて小さな水泡になっていきます。皮膚症状は2〜3週間ほどで消えますが、その跡に神経痛が残ることがあります。

帯状疱疹は、過去に感染した「水痘(水ぼうそう)」のウイルスによって起こります。水痘は多くの人が子どものときにかかりますが、症状が治まってもウイルスは死滅せず、知覚神経の奥の「神経節」に潜伏しています。このウイルスが再び活動を始め、皮膚に症状を起こすのが帯状疱疹です。

なぜウイルスが活動を再開するのかというと、水痘のウイルスに対する免疫力が20年ぐらいたると低下するためといわれています。従って20

「帯状疱疹(ほうしん)」とは、体の片側に赤い発疹が帯状に並んでできることから付いた名前です。多くは、ピリピリ、ズキズキする痛みが体の左右どちらか片側に起こり、5〜6日後に痛みのある場所に赤い発疹が現れ、やがて小さな水泡になっていきます。皮膚症状は2〜3週間ほどで消えますが、その跡に神経痛が残ることがあります。

健康百科

佐久総合病院名誉院長 ● 松島 松翠

带状疱疹



30歳代に発症が多いのです。最近では50歳代以降の中老年の発症が多くなっていますが、上記に加えて加齢による免疫の働きが低下する要素が増えていくからだと考えられています。

带状疱疹ではないかと疑われたら、できるだけ早く皮膚科を受診して、診断をしてもらい、治療を始めます。治療の基本は、「ウイルスの増殖を抑える」「皮膚の炎症を抑える」「痛みを抑える」ことです。ウイルスの増殖を抑えるためには、抗ウイルス薬が使われます。

抗ウイルス薬には内服薬と点滴があります。通常は内服薬ですが、重症の場合は入院して点滴で行います。重症化を防ぎ、また神経痛などの後遺症を残さないために、皮膚症状が現れたら、できるだけ早く治療を始めることが大切です。